

平成二十三年 度 決算に対する討論

賛成討論

夢 ネット 21
もおか 未来
真政クラブ・公明

高橋議員 議案第六十六号平成二十三年度真岡市一般会計決算及び国民健康保険特別会計ほか七件の特別会計決算の認定について、議案第六十七号平成二十三年度真岡市水道事業会計決算の認定について、三会派を代表して、賛成の立場から討論を行う。

平成二十三年度は東日本大震災後のスタートであり、市民誰もが混迷する中、井田市長をはじめ全職員が我が身も顧みず、市民の生命と財産を第一に考え、業務に専念し遂行したことで、今の真岡市があるということを忘れてはならない。

このような中、「第十次市勢発展長期計画」に掲げた事業の推進と選挙公約に基づく施策を着実に実現していること、更には、議会各会派からの建議要望、市民との話し合い事業での要望などにも真摯

に耳を傾け、実行に移していることは評価する。しかし、いくつかの事業では、情報の開示がまだまだであること、専決処分等が見られることなど、今後、議会とのコミュニケーションに十分時間をかけるべきと考える。

平成二十三年度の決算状況を県内十四市と比較すると、歳入では、市民一人当たり四十二万八千三百三円であり、五番目である。そのうち、市政の根幹である市税は、一人当たり十五万九千四百五十三円であり、三番目の位置である。今後、自主財源の主体となる市税の増加に期待するが、現状の経済情勢から推測すると、大幅な増加は見込めない状況である。そのため、市税をはじめ使用料や手数料等のなお一層の収納対策を強く望む。

一方、歳出では、市民一人当たり三十八万三千六百四十五円であり、七番目である。また、人件費や扶助費及び公債費の義務的経費は十四万六千九百五十二円で、十四市中二番目に低く、人件費や公債費の抑制に積極的に取り組んだ結果である。

このような歳入・歳出の状況を踏まえた財政力指数は、〇・八〇

四で十四市中三番目に財政力の高い団体であり、また、経常収支比率は、八一・九%と十四市中最も比率が低く、健全な財政運営に努力されたことが認められる。なお、実質公債費率等の四つの健全判断比率は、いずれも健全な状況にあるが、今後、この指数の動向には十分留意して、財政運営に努めていただきたい。

以上、決算内容について申し述べたが、各施策とも適正かつ効率的に執行されているものである。

井田市長の基本理念である「入るを量りて、出ざるを制す」がある。現在の経済情勢から推測すると、大幅な税収増加が望めない状況であり、いかに出費を少なくする施策を講じていくかが重要な課題である。今後、多くの事業がある中、いかにして最小の出費で、最大の効果を上げられるか、市長をはじめ、職員の活躍を期待するところである。本市の明るい将来のため、そして市民の夢実現に向けて、「公平で公明な真岡市」を掲げ、推進していただきたい。

市長はじめ全職員の各分野での努力に対し、感謝を申し上げるとともに、議員各位のご理解とご賛同をお願いし、賛成討論とする。

第四回 議場コンサートを開催!

真岡市議会では、市民の皆さまにより親しまれ、気軽にお越しいただける議会を目指して、議場コンサートを開催しています。

今回の議場コンサートは、「真岡市民合唱団」の皆さまをお迎えし、九月十日(月)に開催しました。

東日本大震災復興支援ソング「花は咲く」などが披露され、美しい歌声が議場いっぱい響き渡りました。次回は、十二月十日(月)に、「萩野桃子さん、白滝はる奈さん」に出演していただく予定になっています。



真岡市民合唱団の皆さん

ます。お気軽にお越しください。



故 入江巡一議員

故入江巡一議員は、平成二十四年八月十日、故鈴木俊夫議員は、平成二十四年八月二十九日に逝去されました。ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。



故 鈴木俊夫議員

故入江巡一氏は、平成十九年に市議会議員に初当選され、総務常任委員会副委員長、都市計画審議会委員などを歴任し、また、故鈴木俊夫氏は、昭和四十六年に市議会議員に初当選され、第三十九代の真岡市議会議長や監査委員など数々の要職を歴任し、それぞれ市政に大きく貢献されました。なお、九月定例会の開会に先立ち、議場において、故人の冥福をお祈りし、黙とうをささげました。